

“おもしろくて ためになる 学びの共有”  
わかちあい

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

# 教育カウンセラー あきた

第31号

2023年（令和5年）6月30日発行

## ごあいさつ

秋田県教育カウンセラー協会代表  
佐藤 健吉

今日の学校教育をめぐる問題は多岐にわたっております。不登校やいじめへの対応、自閉症スペクトラム、ADHD、限局性学習症といった発達障害とそれに伴う二次障害をもつ子どもの対応、虐待、貧困等の危機的状況への対応等、子どもをとりまく喫緊の課題が山積されております。それらの課題に対応するために、学校、医療、福祉、地域支援といった様々な職種の方々との連携がこれまで以上に重要となるでしょう。教育カウンセリングは、それらの問題の解決を図ることや多職種の連携を深める上で貴重な知見やスキルを与えてくれるものです。

教育カウンセラーは、子どもの成長を促す上で、なお一層重要な役割を担うものになるでしょう。このような状況を踏まえ、日本教育カウンセラー協会は「子育て支援教育カウンセラー」という新たな資格をつくり、子どもの最善の利益を守るための支援者の育成や教育カウンセリングの知見による専門的な支援を提供したり、保護者への心理的な支援と親としての発達支援を行ったりしております。興味のある方はぜひ、資格を取得していただけたらと思います。

今年で設立21年目を迎える本協会は「面白くて ためになる 学びの共有（わかちあい） つなぐ つづける つむぐ つたえあう」というキャッチフレーズで会員の皆様と学びを重ねて参りました。今年度も多様な学びの機会を提供し、皆様と学びを深めて参りたいと思います。

さて、申し遅れましたが、私はこのたび代表に就任させていただきました佐藤健吉と申します。この3月に中学校教員を定年退職し、現在は秋田県の中学校・高等学校のスクールカウンセラーとして勤務しております。

思い起こせば本協会設立当時、私は教育カウンセリングというよりは、むしろ構成的グループエンカウンター（SGE）そのものに興味関心をもって本協会に加入しました。SGEの体験を重ねていくうちに、学校教育をめぐる様々な問題を乗り越える視点の一つを得ることができました。一言で言うとそれは、「人間関係が人を癒す。」です。たとえ悩みを抱えていても、支えてくれる人の存在があるからこそ生きる勇気が湧いてくると思います。

本協会はふれあいと自他理解を促進するSGEを土台にして設立されました。それゆえ本協会のキャッチフレーズは、まさにSGEのスピリットを示しているのです。学び合う仲間がいるからこそ、支え合う仲間がいるからこそ生きる力が湧いてくる。私なりのSGEのスピリットの解釈です。私は、このスピリットをこれまでと同様に大切にしていきたいと思っております。

本協会も今年で21年目を迎え、新たな節目となる時期に代表に就任することは、何かの縁かと思っております。

初代代表の水戸谷貞夫先生から数えて私で4代目となります。歴代の代表の先生がたの業績に恥じぬよう精一杯代表として務めさせていただきます。

まだまだ浅学の域を脱していない若輩者ですが、どうぞよろしく願いいたします。

## 【リレーエッセイ】

### 教育の場における「同調圧力」

東京教育カウンセラー協会代表  
藤川 章

4年ぶりにコロナ後の日常が戻り、経済も文化も教育も、だんだんと元通りに回り始めました。今、マスクの着用は屋内でも個人の判断になりました。ところで、コロナ禍では「同調圧力（ピア・プレッシャー）」が大きな話題となりました。そこにはポジティブ・ネガティブの両面がありました。それについて少し私の考えを述べたいと思います。

日本には、古くは山本七平氏の「空気の研究」がありました。日本は欧米に比べて、論理より場の空気で組織決定されると、ネガティブな受け止めであったと思います。

社会心理学の実験では、有名なソロモン・アッシュの同調行動の研究があります。同調とは人が態度や行動を他人（特に多数派）に合わせることを言います。実験では、七人のサクラと一緒に参加した被験者は、かなりの確率で、必ずしも納得していなくても、自分が孤立したり不利になることを怖れて、誤った答を選ぶというものでした。つまり、洋の東西を問わず、人は同調圧力に左右されやすいということです。

作家の鴻上尚史氏は、日本の社会の息苦しき原因は「同調圧力」だと断定します。コロナ前から、教育の中で「同調圧力」が話題になるときは、学校の教室が子どもたちにとって息苦しいものだという否定的な言い方で語られてきました。それこそ、いじめを生み出す土壌だ、のような厳しい論調でした。これを、学校の先生たちは頷きながら、半分居心地の悪い気持ちで聞いたものです。それは、多分、学級集団では、良い意味の「同調

圧力」を生かして、子どもたちの成長を促しているという実感を持っているからではないでしょうか。

たしかに、コロナ禍のマスクのときの自警団のように、「同調」を超え他人を「支配」または「束縛」するような圧力のかけ方は、仲間はずれ、村八分のような「いじめ」の土壌になり得ると思います。しかし、学校の先生たちは、運動や音楽が不得意な子どもにも、運動会や音楽会に積極的にかかわり、終わった後の満足感や成就感をもつ可能性を期待して指導します。その結果として、不得意なことを強要されて学校に行きづらくなる子どもと、仲間の支えをもとに成就感を得る子どもとでは、天と地の差ができます。

太田肇氏は『同調圧力の正体』の中で、イデオロギーとしての共同体主義がその正体だといいます。戦前の全体主義や国家主義と同義で語られているように感じます。

学校は子どもたちの共同体であることは間違いありません。そこで、識者が心配する共同体主義のあり方について、私たちなりの考え方をしっかりと持つておく必要があります。

アドラー心理学が理論的根拠になると思います。アドラーは共同体感覚のために必要なこととして、次の3点を挙げています。自己受容、他者貢献、他者信頼です。クラスのために（教師のために）、一人一人の子どもがスポイルされることがないために、この3つを大切にすることが、共同体主義批判に対する答になると思うのです。

★藤川章先生は、支部設立10周年記念講演会や養成講座などの講師として秋田に4回もおいで下さっています。記念すべきリレーエッセイのスタートを飾っていただきました。

## 特集「紙上シェア！」～これまでのオンライン事業のご意見・ご感想から～

☆新型コロナ禍、感染防止のためオンラインで事業を進めてきました。オンラインで一堂、会することもなかなかできませんが、その都度みなさんからすばらしいご意見やステキなご感想をいただきました。オンラインが苦手な方、オフライン気味な方も紙媒体で共有できたらと思ひましてほんの一部ですが掲載しシェアしたいと思います。

2022 11/12 オンライン研修講座

11月

① 午前「インターネット依存・ゲーム障害の理解と対応」三原 聡子先生

(独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 主任心理療法師)

②午後「学校における児童生徒の『性の多様性』への対応」佐々木掌子先生

(明治大学文学部心理社会学科臨床心理学専攻 准教授)

①ゲームに没頭している姿を見るとコミュニケーションを図れない子にとらわれがちですが、背景には誰かとつながりたいとか認めてもらいたいという気持ちもその姿にはある、といったことを三原先生のお話やチームで事例検討し合っただ中で確認できました。「何とかやめさせたい」といった保護者側の思いにだけ偏らぬよう、支援者としてかかわる大切さや様々な視点や関係機関との連携の大切さ、何より【ネズミの楽園】でわかったように「孤独にしない大切さ」を大事にしたいと感じました。

②12月に新採用2年目の教諭担当の生徒会主催でスクールロイヤーも招いた中でLGBTQについて話し合いをもつことになっており、大変参考になりました。およそ20年前から……学校として対応しきれなかった感があったことを含め難しい問題ととらえてきました。しかし今回佐々木先生の研修で、多様性を見事に寛容に受け止めることは、命を受け止めること、未来を切り開くエネルギーと感じました。今後、役立てていき、自分自身も成長したいと考えました。大変ありがとうございました。



2023 役員会

みなさんはこの会に入ったのはどんなことがきっかけですか…。悩みを抱えてこう葉にもすがるような思いと何かしらの熱い気持ちで協会に入会されたと思っています。「つなげる」「つたえあう」というのは設立時から引っ張ってこられた先生方の思いや願いでもあり今後数年間を支える普遍的な目的・ゴールになっていくものと思います。悩んでいる方々の支えになるような会の運営について考える一年になっていけたらよいと思います。(H: 2023年2月役員会から)



ヒューマンネットワーク学習会 4/29

カウンセリングに関してこれから勉強したいと思っている段階で、今日の学習会に参加したので、自分だけのはずれなことを言ったり、答えられないことがあったらどうしようと、不安もありました。参加してみて、結果的には、年齢や立場の異なる方々と多岐にわたるお話をさせていただくことができ90分がとても短く感じるほど、楽しく過ごしていました。枠を設定してもらうことで、安心して自分のことを伝えたり、思ったことを話したりすることができ、相手の話を聞こう、分かろうと自然に思えました。難しく考えていたカウンセリングでしたが、私もやってみよう、こんな場面はどうか、と考え始めています。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。今後も、参加させていただきたいと思います。(S)

## これからの公開講演会・研修講座 講師の先生方のご紹介

7月

7月8日（土）「起立性調節障害の理解と対応」 水谷 翠先生

（北摂総合病院 小児科医）

『朝起きれないのは怠けているのではありません。』小児起立性調節障害 SupportGroup の HP 最初の言葉です。《「朝起きれない」「からだがだるい」「気分が悪く」「頭痛がして遅刻や欠席をくり返す」、そんな思春期の子どもがたくさんいます。半分ぐらいは、起立性調節障害という病気です。今世紀になり、新しい検査法が登場し、正確に診断ができるようになりました。（HP より）》科学と心理学とのコラボ、是非オンラインで理解を深めましょう！

11月11日（土）「子どもの自殺のリスクと予防教育について」川野 健治先生

（立命館大学総合心理学部 教授）

学校における自殺予防教育プログラム GRIP—グリップ— 5時間の授業で支えあえるクラスをめざす

子どもの自殺予防で効果を発揮するのが相談する／されるスキルを獲得すること、そして大人とつながること。GRIPはそれを実証したプログラムで、本書は豊富な図表とともに具体的な実施方法をていねいに解説されています。《新曜社 HP より》

自殺率の高い本県にとって学校における予防教育は重要であるといえるでしょう。



11月11日（土）「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング」の理解と実践

—非認知能力を育てる教育フレームワーク— 渡辺 弥生先生

（法政大学文学部心理学科 教授、法政大学大学院ライフスキル教育研究所 所長）

最新刊の同上の著書について詳しくご講義いただきます。

子どもの感情と社会性を育む国際的教育活動「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）」の概要・導入・アセスメント・日本における効果的な実践例が紹介されています。《福村出版 HP より》

一緒に学びませんか！ 申込は協会 HP で

1月

2024年1月21日（日）

「愛着障害の支援の実際と支援体制のあり方」 米澤 好史先生

（和歌山大学教育学部 教授）

和歌山県教育カウンセラー協会会長でもある米澤先生です。愛着障害をキーワードにわかりやすく楽しく役に立つ講演や学校・園に直接出向かれて助言・支援をされています。

『『愛情の器』モデルに基づく愛着修復プログラム』『愛着障害・愛着の問題をどう理解し、どう支援するか？』（福村出版）など他多数あります。

## 編・集・後・記

コロナも下火になり、様々な活動ができるようになってうれしい限りです。新代表の佐藤健吉先生の巻頭言にも SGE のことが書かれていましたが、自分は SGE の体験講習からこの世界に興味をもちました。もちろんグローバルに講演会や研修講座を受講することは大変意味のある学びですが、対面で心が動く体験をすることも意味があると思います。それぞれの良さを今後生かしていけたら素敵な成果を得られるのではないかと思います。これからの展開にワクワクした気持ちで沸き上がってきます。みんなで盛り上がっていきましょう。NY

